

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅱ (小) (2 単位)		3. 科目番号	EDEL2305
2. 授業担当教員	中山 裕一郎			
4. 授業形態	演習 (個人、全員、グループ)		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	「音楽 (小)」の発展として、音楽の基本的な演奏技能と知識を習得し、創造的な音楽教育を実践する能力の育成を目指す。実際には、諸外国の音楽教育の動向を視野に入れながら様々な角度から表現を捉え、声や身体の動きや楽器を媒体として表現を行う方法と、子どもの中にある音楽を引き出す方法を学ぶ。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌いができる。 2. 鍵盤楽器や打楽器やリコーダーによる「アンサンブル」ができる。 3. 声や楽器や身体の動きを媒体として、グループで音楽作品を作ることができる。 4. 音楽の基礎理論 (楽典) の理解ができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ①授業内容をもとに、レポート課題を提示する。 ②伴奏、範唱、範奏などについては、常時、自習しておくこと。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>〔教科書〕 有本真紀他編著『教員養成課程 小学校音楽科教育法』(教育芸術社)</p> <p>〔歌集〕 岡村 弘他編著『これだけは謳って弾こう 子どもの歌 厳選 50 曲』(株式会社共同音楽出版社)</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌いができるようになったか。 2. グループによる「アンサンブル」や、音楽づくりに積極的に取り組んだか。 3. 音楽の基礎理論 (楽典) を理解し、説明できるか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の授業への取り組み及び意欲 総合点の 40% 2. 実技発表 総合点の 40% 3. 音楽理論の理解 総合点の 20% 			
12. 受講生へのメッセージ	<p>小学校音楽科の指導をする上で教員として必要な素養を身に着けるための基礎的な学習を行います。ピアノの習熟や歌唱は、それらの根幹を成すものですので、継続的に練習をして授業に臨んで下さい。また、ピアノの経験があっても弾き歌いを円滑にすることは難しいことですので、併せて訓練を積みましょう。リモートでの授業参加しか出来ない場合でも、鍵盤楽器のある環境での受講など、工夫をお願いします。鍵盤アプリのダウンロードについては、授業でも触れるつもりです。</p> <p>以下の項目を遵守して授業に参加してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 音楽室の使用の規則 (ピアノの扱い方、飲食厳禁等) を守りましょう。 (2) 携帯電話の使用は禁止です。また、授業に関係のない私語はやめましょう。 (3) 宿題やレポートは、指定した日までに提出しましょう。期日を過ぎると、内容が良くても評価は低くなります。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (授業計画の説明他)、音楽学習経験アンケート、演奏レベルチェック	事前学習	教科書を準備し、授業に臨むこと。	
		事後学習	教科書 (p. 89) の《春がきた》のピアノ伴奏を練習しておくこと。	
第 2 回	「学習指導要領」の法的根拠、小学校音楽科の目標、学習指導要領の内容	事前学習	教科書 (pp. 188~191) の「小学校学習指導要領 音楽」の箇所を読み、予習しておくこと。	
		事後学習	学習指導要領の内容をノートにまとめること。 各自課された演奏課題を練習しておくこと。	
第 3 回	「歌唱の活動」を通じた内容の理解① 一個のレベルに応じた弾き歌いの個人レッスン	事前学習	教科書 (p. 89) の《春がきた》の旋律を、歌ったり、ピアノで弾いたりできるように予習すること。	
		事後学習	教科書 (p. 89) の《春がきた》の旋律を、歌いながら弾くことができるように復習すること。	
第 4 回	「歌唱の活動」を通じた内容の理解② 一個のレベルに応じた弾き歌いの個人レッスン	事前学習	各自課された演奏課題を予習しておくこと。	
		事後学習	レッスンを振り返り、今後の課題を進度表にまとめておくこと。	
第 5 回	「歌唱の活動」を通じた内容の理解③ 一個のレベルに応じた弾き歌いの個人レッスン	事前学習	各自課された演奏課題を予習しておくこと。	
		事後学習	レッスンを振り返り、今後の課題を進度表にまとめておくこと。	
第 6 回	楽典及びコードネームについて (これらの理解については、授業全体を通して、その都度触れる予定)	事前学習	テキスト p164~に目を通しておくこと。各自の弾き歌いの試験課題曲を練習しておくこと。	
		事後学習	授業で学んだ楽典及びコードネームについて、復習しておくこと。	

第7回	「器楽の活動」における指導内容の理解① リコーダー、鍵盤ハーモニカ等の扱いの理解	事前学習	教科書 (pp. 27～28) を読み、リコーダーの種類や奏法について予習すること。
		事後学習	リコーダーの奏法を復習すること。
第8回	「器楽の活動」における指導内容の理解② —合奏活動のグループ決めと練習—	事前学習	教科書 (pp. 23～28) を読み、小学校で取り扱う打楽器の種類や名称についての理解を深めておくこと。
		事後学習	各自担当する楽器で指定された楽曲の演奏の復習をすること。
第9回	「器楽の活動」における指導内容の理解③ —合奏のグループ活動の仕上げ—	事前学習	各自担当する楽器で指定された楽曲の演奏のしあげをしておくこと。
		事後学習	グループ発表に向けて、指定された楽曲の演奏のしあげをしておくこと。
第10回	合奏のグループ発表	事前学習	発表に向けて、グループで演奏を合わせて練習しておくこと。
		事後学習	グループ合奏を振り返り、良かった点、改善点をまとめておくこと。
第11回	「音楽づくり」における指導内容の理解①	事前学習	教科書 (pp. 36～43) を読み、音楽づくりの指導内容について予習しておくこと。
		事後学習	グループごとにつくった音楽について振り返り、良かった点、改善点をまとめておくこと。
第12回	「音楽づくり」における指導内容の理解② 手作り楽器	事前学習	教科書 (pp. 36～43) を読み、音楽づくりの指導内容について予習しておくこと。
		事後学習	グループごとにつくった音楽について振り返り、良かった点、改善点をまとめておくこと。
第13回	「鑑賞の活動」における指導内容の理解①—低学年の鑑賞教材について—	事前学習	教科書 (pp. 44～48) を読み、低学年の鑑賞の活動の指導内容について予習しておくこと。
		事後学習	低学年の鑑賞教材について、ノートにまとめておくこと。
第14回	「鑑賞の活動」における指導内容の理解②—中学年及び高学年の鑑賞教材について—	事前学習	教科書 (pp. 49～54) を読み、中学年及び高学年の鑑賞の活動について予習しておくこと。
		事後学習	中学年及び高学年の鑑賞教材について、ノートにまとめておくこと。
第15回	まとめ (ピアノ演奏表現と弾き歌い)	事前学習	「音楽Ⅱ」で学んだ小学校で扱う活動の内容や教材について復習しておくこと。
		事後学習	「音楽Ⅱ」で学んだことを振り返り、小学校で扱う活動の内容についてまとめる。
期末試験			